

橋町の見どころ

まちの歴史シリーズ ⑤

橋町HP <https://tachibana-net.jp> [歴史・史跡](#) クリック

発行：橋町まちづくり推進協議会
ふるさと部会
発行日：令和4年11月1日
責任者：前田 信俊
事務局：橋公民館 22-3884

今回の案内は
小野原区長 山口義孝さん



今は、家もな～もなかばってん、昔はみやこやったらしか。郷の木に「みやこ」の地名が残っとですもんね。発掘調査の時は地元からも、よんにゆ行きんしゃった。



クイズ

右写真のような、ジョッキ型土器は何に使った？

古代のみやこ

いせき みやこ遺跡 (小野原)

●どこに、あ～と？

みやこ★①遺跡は郷の木★②にあ～とです。六角川の改修に伴って見つかったとです。

●どがん、調査やった？

4次にわたる発掘調査★③の結果、弥生時代から近世にかけて、なが～か期間の集落遺跡だとわかったとです。

●どがんと、出てきたと？

弥生時代の環濠、祭祀遺構★④、墓★⑤、掘立柱建物跡★⑥、膨大な量の遺物★⑦古墳時代の住居跡、中世の屋敷跡、木製馬具（佐賀県の重要文化財）などが見つかったと看板に書いちゃ～です。（漢字ばっかいでごめんなさいね）

●特に、弥生時代には、あの有名な

「吉野ヶ里遺跡に似た集落の成長が見られる」って言うてる人も、おんしゃ～ですね。

みやこ遺跡の場所（赤丸のところ）



★印番号の解説

今回は弥生人になって、
現地を案内するね。



★①みやこの由来（発掘報告書より）

河川改修が行われる前は、この一帯には畑やクレークがあり、家屋はなかったんだ。「みやこ」の地名はながしましろうみやこがり長島庄都里に由来する「都」、潮見神社に由来する「宮戸」「宮古」などの呼び名があり、どれにも言われがあるので、ひらがな表記とされたのさ。

★②遺跡の場所

みやこ遺跡は六角川右岸（上流から見て右側）から左岸堤防にかけてあるよ。写真は堤防から潮見神社方面を写したものだよ。



★③4次に渡る調査箇所（発掘報告書より）

ここは、色々な工事があるって、報告書もたくさん出るよ。武雄では、一番広く調査されているんだ。

【色分け】

河川改修工事
（六角川）
（みやこⅢ）

横断道工事

圃場整備工事



ここでは、色んな時代のものがはっけんされたので、今回はやよい時代だけを説明するね。こふん時代以降は、次回以降のお楽しみ。



★⑥武雄で初めて弥生の掘立柱建物跡

大きさ1間×1間、柱穴の一边が1mもあるよ。柱穴の底に横木を渡して、柱が沈むのを防いだ構造となっていて、大事な建物だったみたい。でも何に使われたか不明(発掘報告書)なんだ。こくもつ倉庫に利用されたのかもね。

★④弥生の祭祀遺構 (発掘報告書より)

透かし窓を持つ器台やジョッキ型土器、水差型土器とよばれる土器が見つかったよ。



透かし窓を持つ器台⇒

煮炊きに使用できない土器なので、これらは祭祀用と考えられているんだ。墓地には祭壇と思われる場所が2カ所もあって、地域の権力者のものと考えられているんだ。

★⑤弥生時代の多くの墓 (発掘報告書より)

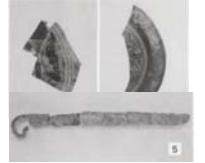
甕棺墓(土器を使った墓)、石棺墓(石の板で囲んだ墓)、土壇墓(土を掘った墓)などが80基以上見つかったよ。

クイズの答え

死者を弔うための、お祭り用と考えられているよ。

★⑦膨大な量の弥生土器と副葬品 (発掘報告書より)

- 管玉、小玉、水晶
- 舶載鏡 (中国から来た鏡) 2点
- 鉄剣 (32.8 cm)、鉄刀、刀子、鉄鋸
- 鉄斧、鉋(やりがんな)
- 石剣・石戈、石鏃
- 石錐、磨製石斧(今山産)、石鎌、石包丁(立岩産)
- 多量の弥生土器(壺・甕・特殊な器台など)



ホントに多種多様で豊富な出土物なんだ。玉類や鉄器類はお墓に副葬されていたんだ。石包丁はどうやって使ったのかわかるかな？それにしても、武器が多いよね。

弥生時代のイロハ

弥生時代と言えば、縄文土器から弥生土器に変わったことだけが特徴かな？



① 食生活が変わった

米を作るようになって、それまでの狩猟と採取の暮らしに、コメを育てることが加わるんだね。

② 争い(戦い)が多くなった

米は保存ができるので、蓄えることが可能になるよ。だから保存米や水利権などを求めて争うようになったんだね。そこで、濠(ほり)をほって集落を守る「環濠」が造られるようになったんだ。

③ 社会の構造が変わってきた

田んぼ・水路・環濠などを造るためには、共同作業が必要になるよね。すると、集落の中でリーダー層が生まれ、やがて集落が大きくなるとともに、リーダーの力が強くなっていくんだ。

(古代史の解説書や福岡市・藤井寺市の紹介文などを参考にまとめました。)

今回ご紹介した遺跡は『弥生時代』のものでした(古墳以降は別の機会に)

時代区分	縄文時代	弥生時代	古墳時代	奈良時代	平安時代	鎌倉時代	
新・ふるさと歴史散歩記載項目	1万年前に気候温暖、島国に。土器を作り煮炊きや貯蔵が可能に。	紀元前300～300。水稲栽培と弥生土器。環濠集落と小国家形成。大陸との交流も盛ん	3C半ば～700頃。古墳を造った時代。大和を中心とする統一国家(大和王権)の形成	任那日本府の滅亡と白村江の戦い後期は飛鳥時代へ	律令体制。710～794 国史編纂と風土記。武雄が杵島の郡として記載される。	藤原氏の権力増大、摂関政治を行う。荘園を貴族や寺社が支配。武士団を形成。	鎌倉幕府成立。守護地頭による地方支配、橋氏の入部
主な市内遺跡 赤書は橘町	市場・下貝原・釈迦寺遺跡等の遺物。市内200カ所以上。阿舍利・積原遺跡(山内)	小橋-みやこ遺跡の環濠、潮見川流域・釈迦寺等遺跡。市内100カ所以上。	町内遺跡の鏡、銅剣。玉江遺跡 武雄平野を取り囲む山の周辺で300基以上	玉島・潮見古墳、おつぼ山神籬石、東福寺・矢ノ浦・大蛇古の前方後円墳。線刻古墳も	肥前風土記と歌垣山、井手橋・林副(墨書土器) 武雄温泉 広福寺仏像	長嶋庄成立 橋町条里制庄の前遺跡 おつぼ山経塚 武雄神社、黒尾神社、各地の経塚	潮見城跡と館跡、潮見・山下・小野原・馬場・立岩等の中世遺跡 源頼朝御教書